

事務事業の概要							
1	事務事業名	スポーツ振興団体育成事業 (クラブサービス)					
2	担当部名	魅力創造部	担当課名	スポーツ推進課	課長名	熊本 光伸	
3	総合計画の位置づけ	目指す都市像	4	市民の自立と個性を活かすまち			
		施策	2	生涯スポーツの推進			
		今後の取組	1	スポーツ団体の支援・育成			
4	総合戦略の位置づけ	基本目標					
		基本的方向					
5	行革大綱の位置づけ	重点項目					
		項目					
		改革名					
6	予算事業名	スポーツ推進事業費					
7	事業開始年度	昭和 31 年度	事業終了年度	平成	年度		
事務事業の実施							
8	対象	市民					
9	事業の目的	スポーツ・レクリエーション振興団体 (組織・クラブ) を育成・支援することにより、自主的・自発的な市民のスポーツ活動を助長・促進し、生涯スポーツ振興に資する。					
10	改善内容を踏まえた今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直ししながら続ける	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する
		(公社) 檀原市スポーツ協会が、平成29年度から3カ年度にわたり運動公園の指定管理者となったことで、スポーツ専門団体の持つ専門性やノウハウを事業に活かして、スポーツサービスの民営化と弾力化を図る。					
11	事業の内容 (手法)	①財政支援… (公社) 檀原市スポーツ協会育成補助金、檀原市レクリエーション協会育成補助金 ②活動支援及び指導助言…事務局事務、団体運営の指導助言					
		平成30年度からの拡充・変更内容 (予算措置を必要とするものに限る)					
12	指標の推移	名称 (単位)	29年度 (総計目標値)	30年度 (見込み)	31年度 (見込み)	32年度 (見込み)	
		成果指標	団体構成員数 (人)	8460	8460	8460	8460
	活動指標	① 事業数 (件)	215	215	215	215	
		②					
	13	コストの推移 (単位:千円)		(当初予算)	(予算要求)	(見込み)	(見込み)
歳出 (直接事業費) (a)		19,590	20,561	21,532	22,503		
歳入 (b)		受益者負担額					
		国県補助金等その他					
(a) - (b) = 一般財源		19,590	20,561	21,532	22,503		
14	増額理由	継続事業					
備 考							

事務事業の概要							
1	事務事業名	体育館管理運営事業					
2	担当部名	教育委員会事務局	担当課名	社会教育課(中央公民館)	課長名	加藤智治	
3	総合計画の位置づけ	目指す都市像	4	市民の自立と個性を活かすまち			
		施策	2	生涯スポーツの推進			
		今後の取組	2	体育施設の充実			
4	総合戦略の位置づけ	基本目標					
		基本的方向					
5	行革大綱の位置づけ	重点項目					
		項目					
		改革名					
6	予算事業名	市立体育館管理運営費					
7	事業開始年度	平成	年度	事業終了年度	平成	年度	
事務事業の実施							
8	対象	体育館利用者					
9	事業の目的	安全で快適な体育・レクリエーション活動の場を提供する。					
10	改善内容を踏まえた今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直ししながら続ける	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する
		多くの方に利用していただくように、今後も引き続き利用者に空き情報を窓口、掲示板、「e古都なら」で周知していく。					
11	事業の内容(手法)	利用については、2月、5月、8月、11月の3ヶ月ごとに午前の部・午後の部のスケジュール会議を開催し、効率的な使用調整を図る。使用料金はより多くの団体や個人が利用できるように低価格で設定されている。そして、空き情報をインターネット「e古都なら」に表示し、同時に申込みも出来るよう利便性の向上を図っている。また、原則毎月第2・第4土曜日の午前中を小中学生に対し無料開放日と設定し、保護者同伴で少しでも多くのスポーツ活動の場を提供している。					
		平成30年度からの拡充・変更内容(予算措置を必要とするものに限る)					
12	指標の推移	名称(単位)	29年度 (総計目標値)	30年度 (見込み)	31年度 (見込み)	32年度 (見込み)	
		成果指標	利用者	41000	41000	41000	41000
	活動指標	①	利用件数	1800	1800	1800	1800
		②					
13	コストの推移(単位:千円)		(当初予算)	(予算要求)	(見込み)	(見込み)	
	歳出(直接事業費)(a)		1,097	1,597	3,586	1,458	
	歳入(b)	受益者負担額	2,328	2,300	2,300	2,300	
		国県補助金等その他					
	(a) - (b) = 一般財源		-1,231	-703	1,286	-842	
14	増額理由	継続事業					
備 考							

事務事業の概要							
1	事務事業名	檀原運動公園管理運営事業					
2	担当部名	魅力創造部	担当課名	スポーツ推進課	課長名	熊本 光伸	
3	総合計画の位置づけ	目指す都市像	4	市民の自立と個性を活かすまち			
		施策	2	生涯スポーツの推進			
		今後の取組	2	体育施設の充実			
4	総合戦略の位置づけ	基本目標					
		基本的方向					
5	行革大綱の位置づけ	重点項目					
		項目					
		改革名					
6	予算事業名	運動公園管理運営費					
7	事業開始年度	平成 18 年度	事業終了年度	平成	年度		
事務事業の実施							
8	対象	市民等					
9	事業の目的	指定管理者制度により、民間事業者等の自主性や創意工夫を活かした弾力的かつ効率的な施設運営を行い、住民等に対する健康増進サービスの効果及び効率を向上させ、市民のスポーツ振興並びに地域福祉の一層の増進を図る。					
10	改善内容を踏まえた今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直ししながら続ける	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する
		指定管理者が行う管理運営についてモニタリングを実施し、健全な施設運営を確保する。官民連携による施設機能の増進、市民ニーズに即した多彩なサービスを提供し、更なる利用の促進に努める。					
11	事業の内容(手法)	指定管理者は、基本協定に基づき事業計画を定め、施設の運営・維持管理・経営管理等の管理運営業務の代行並びに自主事業を行い、市民活動の場を提供する。市は、指定管理者が行う管理運営の監理及び協定外の施設運営・維持管理に関する事務を執り行う。					
		平成30年度からの拡充・変更内容(予算措置を必要とするものに限る)	芝生広場をサッカーを主体としたグラウンドに整備(人工芝化)する。老朽化した総合プール施設・設備を整備する。				
12	指標の推移	名称(単位)	29年度 (総計目標値)	30年度 (見込み)	31年度 (見込み)	32年度 (見込み)	
	成果指標	利用者総数(人)	200000	200000	200000	200000	
	活動指標	①					
		②					
13	コストの推移(単位:千円)		(当初予算)	(予算要求)	(見込み)	(見込み)	
	歳出(直接事業費)(a)		85,515	253,856	127,497	72,949	
	歳入(b)	受益者負担額	587	587	587	587	
		国県補助金等その他	16,700	48,000			
	(a) - (b) = 一般財源		68,228	205,269	126,910	72,362	
14	増額理由	拡充事業	事業内容の拡充によるもの				
備 考							
事業の目的を鑑みて、事業の種別を「ソフト(義務)」から「ソフト(任意)」へ変更する。							

事業の具体的内容の検討				
15	妥当性の検討	なぜ市が関与しているのか	番号	1 義務 法律等（条例を除く）で義務付けられた事業
			2	2 任意 公共性や収益性の観点から市が関与すべき事業
		説明	<p>総合計画に定める基本方針の実現に向け、市民・各種団体・行政等の各主体が適切な役割分担のもとで連携・協働しており、市は施設設置者としての行政責任を果たす必要があるため。</p>	
16	緊急性の検討	なぜ今なのか	説明	<p>2020年東京五輪をはじめとする国際大会の開催に伴い、スポーツの機運が一層の高まりを見せている。平成31年度には奈良県で全国中学校体育大会第50回全国中学校サッカー大会が開催されるなど、多様なスポーツ交流拠点の形成を目指し、体育施設の更なる充実を図る必要がある。芝生広場については医大ヘリポートの整備に伴い用途を見直す時期にあり、施設を有効に活用し、より多くの市民に活動・交流の機会を提供できるよう、ニーズに応じた改善を図っていく必要がある。運動公園は長寿命化計画に基づき整備が進められてきたが、総合プールの施設・設備には供用開始（昭和55年度）時のものが含まれ、老朽化が著しい。施設の健全性や利用者の安全性を確保するため、速やかに施設や設備の補修が必要である。</p>
17	有効性の検討	期待される効果・メリット	1	1 高い 2 やや高い 3 やや低い 4 低い
			説明	<p>体育施設の充実を図ることで、競技大会等の誘致やスポーツイベントの開催など、多様なスポーツ活動の機会を創出することができる。サッカーを実施できる規模のグラウンドはニーズも高く、養生等を要しない人工芝グラウンドは高稼働な施設運営が可能となる。また、散水、除草、地ならし、芝刈り、ライン引き等が不要となることから維持管理が容易となる。老朽化したプール施設・設備の整備については、施設の機能回復及び安定稼働に伴う、設置者責任の確保を期待できる。</p>
		上位施策（総合計画・基本計画）への貢献度	1	1 高い 2 やや高い 3 やや低い 4 低い
			説明	<p>多様なスポーツ・レクリエーション活動の場を提供することで、スポーツへの親しみや地域活動等の交流を促進することができる。老朽化したプール施設・設備を適切に整備することにより、施設の健全性や利用者の安全性を確保することができる。</p>
18	効率性の検討	コストの検証（費用対効果の検証を含む）	4	<p>1 事業費も人件費も低減 2 人件費は増加するが事業費は低減</p> <p>3 事業費は増加するが人件費は低減 4 事業費も人件費も増加</p>
			補助金等の有無	有 補助金名（スポーツ振興くじ助成金）
		説明	<p>人工芝グラウンドは天然芝に比べて初期投資を要するが、高稼働な施設運営ができること、維持管理が容易なことなど、天然芝に比べて収益性が高く、かつライフサイクルコストを抑制することができる。老朽化したプール施設・設備を適切に整備することは、施設の健全性や利用者の安全性が向上するだけでなく、収益性の改善も期待でき、費用対効果は高い。</p>	

事務事業の概要							
1	事務事業名	ひがしたけだドーム管理事業					
2	担当部名	魅力創造部	担当課名	スポーツ推進課	課長名	熊本 光伸	
3	総合計画の位置づけ	目指す都市像	4	市民の自立と個性を活かすまち			
		施策	2	生涯スポーツの推進			
		今後の取組	2	体育施設の充実			
4	総合戦略の位置づけ	基本目標					
		基本的方向					
5	行革大綱の位置づけ	重点項目					
		項目					
		改革名					
6	予算事業名	ひがしたけだドーム管理運営費					
7	事業開始年度	平成 22 年度	事業終了年度	平成	年度		
事務事業の実施							
8	対象	市民等					
9	事業の目的	平成22年度よりオープンした橿原市初のインドア球技（テニス・フットサル等）施設「ひがしたけだドーム」を身近なスポーツの場として市民の利用に供し、市民の体育、レクリエーション活動を促し、健康増進及び体力の維持向上に寄与する。					
10	改善内容を踏まえた今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直ししながら続ける	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する
		所管スポーツ施設を一体的に管理し、業務の併合等によるコストの縮減、サービスの向上、更なる利用促進策を検討する。					
11	事業の内容(手法)	施設に職員を配置して受付及び管理業務を行う。窓口並びに電子媒体（e古都なら）の受付により、施設利用に係る調整を図る。					
		平成30年度からの 拡充・変更内容 (予算措置を必要とする ものに限る)					
12	指標の推移	名称(単位)	29年度 (総計目標値)	30年度 (見込み)	31年度 (見込み)	32年度 (見込み)	
		成果指標	利用者総数(人)	22000	22000	22000	22000
	活動指標	①					
		②					
	13	コストの推移(単位:千円)		(当初予算)	(予算要求)	(見込み)	(見込み)
歳出(直接事業費)(a)		7,767	8,733	14,075	14,075		
歳入(b)		受益者負担額	3,132	3,132			
		国県補助金等その他					
(a) - (b) = 一般財源		4,635	5,601	14,075	14,075		
14	増額理由	継続事業					
備 考							
事業の趣旨等を勘案し、事務事業名を「公共体育施設管理事業」から「ひがしたけだドーム管理事業」に改める。							

事務事業の概要							
1	事務事業名	新沢千塚公園拠点施設管理事業					
2	担当部名	魅力創造部	担当課名	スポーツ推進課	課長名	熊本 光伸	
3	総合計画の位置づけ	目指す都市像	4	市民の自立と個性を活かすまち			
		施策	2	生涯スポーツの推進			
		今後の取組	2	体育施設の充実			
4	総合戦略の位置づけ	基本目標					
		基本的方向					
5	行革大綱の位置づけ	重点項目					
		項目					
		改革名					
6	予算事業名	新沢千塚古墳群公園管理運営費					
7	事業開始年度	平成 28 年度	事業終了年度	平成 一 年度			
事務事業の実施							
8	対象	市民等					
9	事業の目的	新沢千塚古墳群の自然豊かな環境において、健康づくり、生涯学習の普及支援、地域の世代間交流の拠点となる場を提供し、市民の健康の維持増進、交流人口の拡大、さらには観光の振興による地域の活性化を図る。					
10	改善内容を踏まえた今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直ししながら続ける	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する
		安定的な施設運営を確立するとともに、利用者の意見や要望を活用しサービスの改善・充実を図り、更なる利用の促進に努める。また、経済性や効率性のみならず、市民サービスの向上や行政責任の確保など多角的な観点から、公の施設の管理運営の在り方について検討を進める。					
11	事業の内容(手法)	職員を配置して有料施設の受付業務を行う。施設の運営・維持管理等の管理業務を行う。また、自主事業を行い、生涯学習の場を提供する。					
		平成30年度からの拡充・変更内容(予算措置を必要とするものに限る)					
12	指標の推移	名称(単位)	29年度 (総計目標値)	30年度 (見込み)	31年度 (見込み)	32年度 (見込み)	
	成果指標	利用者総数(人)	96000	96000	96000	96000	
	活動指標	①					
		②					
13	コストの推移(単位:千円)		(当初予算)	(予算要求)	(見込み)	(見込み)	
	歳出(直接事業費)(a)		109,669	111,420	87,676	87,638	
	歳入(b)	受益者負担額	30,060	31,060	0	0	
		国県補助金等その他	61	93	93	93	
	(a) - (b) = 一般財源		79,548	80,267	87,583	87,545	
14	増額理由	継続事業					
備 考							

事務事業の概要

1	事務事業名	公共体育施設管理運営事業				
2	担当部名	魅力創造部	担当課名	スポーツ推進課	課長名	熊本 光伸
3	総合計画の位置づけ	目指す都市像	4	市民の自立と個性を活かすまち		
		施策	2	生涯スポーツの推進		
		今後の取組	2	体育施設の充実		
4	総合戦略の位置づけ	基本目標				
		基本的方向				
5	行革大綱の位置づけ	重点項目				
		項目				
		改革名				
6	予算事業名	体育館管理運営費				
7	事業開始年度	平成 18 年度	事業終了年度	平成	年度	

事務事業の実施

8	対象	市民等					
9	事業の目的	指定管理者制度により、民間事業者等の自主性や創意工夫を活かした弾力的かつ効率的な施設運営を行い、住民等に対する健康増進サービスの効果及び効率を向上させ、市民のスポーツ振興並びに地域福祉の一層の増進を図る。対象施設は、香久山体育館・万葉の丘スポーツ広場、曾我川緑地体育館・曾我川緑地とする。					
10	改善内容を踏まえた今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直ししながら続ける	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する
		指定管理者が行う管理運営についてモニタリングを実施し、健全な施設運営を確保する。官民連携による施設機能の増進、市民ニーズに即した多彩なサービスを提供し、更なる利用の促進に努める。					
11	事業の内容(手法)	指定管理者は、基本協定に基づき事業計画を定め、施設の運営・維持管理・経営管理等の管理運営業務の代行並びに自主事業を行い、市民活動の場を提供する。市は、指定管理者が行う管理運営の監理及び協定外の施設運営・維持管理に関する事務を執り行う。					
		平成30年度からの 拡充・変更内容 (予算措置を必要とする ものに限る)					

12	指標の推移	名称(単位)	29年度	30年度	31年度	32年度
			(総計目標値)	(見込み)	(見込み)	(見込み)
	成果指標	利用者総数(人)	240000	240000	240000	240000
	活動指標	①				
		②				
13	コストの推移(単位:千円)		(当初予算)	(予算要求)	(見込み)	(見込み)
	歳出(直接事業費)(a)		88,091	88,654	92,549	93,439
	歳入(b)	受益者負担額				
		国県補助金等その他				
(a) - (b) = 一般財源		88,091	88,654	92,549	93,439	

14	増額理由	継続事業
----	------	------

備 考

事業の趣旨等を勘案し、事務事業名を「公共体育施設管理事業(指定管理者制度)」から「公共体育施設管理運営事業」に改める。

事務事業の概要							
1	事務事業名	学校体育施設開放事業					
2	担当部名	魅力創造部	担当課名	スポーツ推進課	課長名 熊本 光伸		
3	総合計画の位置づけ	目指す都市像	4	市民の自立と個性を活かすまち			
		施策	2	生涯スポーツの推進			
		今後の取組	2	体育施設の充実			
4	総合戦略の位置づけ	基本目標					
		基本的方向					
5	行革大綱の位置づけ	重点項目					
		項目					
		改革名					
6	予算事業名	スポーツ推進事業費					
7	事業開始年度	昭和 57 年度	事業終了年度	平成	年度		
事務事業の実施							
8	対象	市民					
9	事業の目的	生涯スポーツの振興を図るため、市内の小・中学校体育施設を学校教育に支障のない範囲で、市内で活動するスポーツ団体に開放し、利用に供する。					
10	改善内容を踏まえた今後の方向性	3	1 拡大する	2 見直ししながら続ける	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する
		現在、中学校5校のナイター照明施設にかかる電気料金の一部を受益者が負担している。今後は電気料金の値上げ等に対応して使用料の見直しを検討し、コストの低減に努める。一方で、照明施設の設置から30年程度が経過しているため、経年劣化による事故の危険性を回避するためには大規模な修繕が不可欠だが、多額のコストが伴う。照明施設が老朽化し点灯不能となった学校から、順次利用を停止するのも一案である。					
11	事業の内容(手法)	①各校に、教諭を中心として管理指導員を委嘱する。管理指導員は、利用団体の年間スケジュールを調整し、管理指導等を行い、事業を効率的に運営する役目を担う。 ②中学校5校のナイター照明施設については、毎月スケジュール調整会議を開催する。また、開放時間内の巡視、ナイター施設のメンテナンスは業務委託している。 ③ナイター照明施設にかかる電気料金の一部は、利用者が負担する。					
		平成30年度からの 拡充・変更内容 (予算措置を必要とするものに限る)	これまで当事業に係る万葉ホールでの受付業務委託契約は、旧文化・スポーツ課が平成27年9月から30年8月までの長期継続契約を締結し、28年度の機構改革に伴う独立後は文化振興課で支払ってきた。30年9月分からの新たな契約は、当課で別途締結する必要がある。				
12	指標の推移	名称(単位)	29年度 (総計目標値)	30年度 (見込み)	31年度 (見込み)	32年度 (見込み)	
		成果指標	延べ利用者総数(人)	300000	300000	300000	300000
	活動指標	①	開放施設数(件)	56	56	56	56
		②					
	コストの推移(単位:千円)	(当初予算)	(予算要求)	(見込み)	(見込み)		
13	歳出(直接事業費)(a)		1,269	1,496	1,724	1,732	
		歳入(b)	受益者負担額	600	600	600	600
		国県補助金等その他					
	(a) - (b) = 一般財源		669	896	1,124	1,132	
14	増額理由	継続事業					
備 考							

事務事業の概要							
1	事務事業名	各種スポーツ教室の開催事業					
2	担当部名	教育委員会事務局	担当課名	社会教育課(中央公民館)	課長名	加藤智治	
3	総合計画の位置づけ	目指す都市像	4	市民の自立と個性を活かすまち			
		施策	2	生涯スポーツの推進			
		今後の取組	3	スポーツ教室の充実			
4	総合戦略の位置づけ	基本目標					
		基本的方向					
5	行革大綱の位置づけ	重点項目					
		項目					
		改革名					
6	予算事業名	市立体育館管理運営費					
7	事業開始年度	平成	年度	事業終了年度	平成	年度	
事務事業の実施							
8	対象	市民					
9	事業の目的	市民のスポーツの場として、余暇の活用、体力向上及び健康維持・増進を図るため、中央体育館においてスポーツ教室を開催し、自主活動のきっかけづくりの場を提供するとともに仲間づくりも支援する。					
10	改善内容を踏まえた今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直ししながら続ける	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する
		年間でソフトテニス教室20回、ジュニア剣道教室20回を開催している。各種目を充実させることにより、市民の健康・体力づくり、しっかりとした礼儀作法を学ぶなど心身の充実をさせることが期待できる。今後は市民のニーズを考慮しながら、人気のスポーツへの変更も検討していく。一方で、他課及びスポーツ協会もスポーツ教室を開催していることから、教室内容の改善を検討する。					
11	事業の内容(手法)	中央公民館にて成人対象のソフトテニス教室、小学生対象のジュニア剣道教室を開催している。各競技とも協会、連盟に講師を依頼して初心者から経験者に至るまできめ細やかな指導を行っている。そして、今後の教室を活かすために受講生に毎日日誌に内容や感想を記入していただくことで、指導者とのコミュニケーションの充実を図っている					
		平成30年度からの拡充・変更内容(予算措置を必要とするものに限る)					
12	指標の推移	名称(単位)	29年度 (総計目標値)	30年度 (見込み)	31年度 (見込み)	32年度 (見込み)	
	成果指標	延べ参加人数	2400	2400	1600	1600	
	活動指標	① 開催件数	66	60	40	40	
		②					
	コストの推移(単位:千円)		(当初予算)	(予算要求)	(見込み)	(見込み)	
13	歳出(直接事業費)(a)		861	861	861	861	
	歳入(b)	受益者負担額					
		国県補助金等その他					
	(a) - (b) = 一般財源		861	861	861	861	
14	増額理由	継続事業					
備 考							

事務事業の概要							
1	事務事業名	各種スポーツ教室開設実施事業					
2	担当部名	魅力創造部	担当課名	スポーツ推進課	課長名	熊本 光伸	
3	総合計画の位置づけ	目指す都市像	4	市民の自立と個性を活かすまち			
		施策	2	生涯スポーツの推進			
		今後の取組	3	スポーツ教室の充実			
4	総合戦略の位置づけ	基本目標					
		基本的方向					
5	行革大綱の位置づけ	重点項目					
		項目					
		改革名					
6	予算事業名	スポーツ推進事業費					
7	事業開始年度	平成	年度	事業終了年度	平成	年度	
事務事業の実施							
8	対象	市民(市内在住・在勤・在学者)					
9	事業の目的	市民一人ひとりが年齢や生活環境に応じた様々なスポーツに親しむことができるようなスポーツ教室や体験会を実施し、日常的にスポーツに親しみ、健康で豊かな生活を送ることができるよう支援することを目的とする。					
10	改善内容を踏まえた今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直しながら続ける	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する
		競技性の高いスポーツ教室は(公社)檀原市スポーツ協会に運営主体を移行してきたことで、今後行政は児童や高齢者などスポーツを始めるきっかけが必要な市民に対し、ニュースポーツ等を手軽に楽しめる機会を創出し、運動を継続する方法や環境を提案・提供することに注力していく。また、相応な受益者負担を検討するとともに、ニーズやターゲットを明確にしてメニューを提案する。					
11	事業の内容(手法)	ニーズを的確に把握し、人気の高いプログラムを積極的に取り入れる。また、勝敗ではなく楽しむことを目的に考案されたニュースポーツや、低負荷で実施後も取り組みやすい教室を開催し、市民が体を動かす契機作りを目的とする。 ①児童対象…ドッジボール教室、アクアゲーム体験会、リトルキッズ教室 ②一般対象…ニュースポーツ体験会、スローエアロ&ストレッチング体験会、ノルディックウォーク体験会、太極拳教室、ママフィットネス教室ほか					
		平成30年度からの拡充・変更内容(予算措置を必要とするものに限る)					
12	指標の推移	名称(単位)	29年度 (総計目標値)	30年度 (見込み)	31年度 (見込み)	32年度 (見込み)	
		成果指標	参加率(%)	80	80	80	80
	活動指標	① 開設スポーツ教室数(数)	12	12	12	12	
		② 参加者数(人)	670	700	700	700	
13	コストの推移(単位:千円)		(当初予算)	(予算要求)	(見込み)	(見込み)	
	歳出(直接事業費)(a)		2,869	2,134	2,136	2,137	
	歳入(b)	受益者負担額					
		国県補助金等その他					
	(a) - (b) = 一般財源		2,869	2,134	2,136	2,137	
14	増額理由	継続事業					
備 考							

事務事業の概要							
1	事務事業名	総合スポーツ大会開催事業					
2	担当部名	魅力創造部	担当課名	スポーツ推進課	課長名	熊本 光伸	
3	総合計画の位置づけ	目指す都市像	4	市民の自立と個性を活かすまち			
		施策	2	生涯スポーツの推進			
		今後の取組					
4	総合戦略の位置づけ	基本目標					
		基本的方向					
5	行革大綱の位置づけ	重点項目					
		項目					
		改革名					
6	予算事業名	スポーツ推進事業費					
7	事業開始年度	昭和 31 年度	事業終了年度	平成	年度		
事務事業の実施							
8	対象	市民（スポーツ実践者）					
9	事業の目的	市民一人ひとりが、各自のライフスタイルやライフステージに応じてスポーツ活動を実践できる場を提供し、各スポーツ種目の普及、および競技力の向上に努め、生涯スポーツの推進を図る。					
10	改善内容を踏まえた今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直ししながら続ける	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する
		市民総参加の行事として、（公社）檀原市スポーツ協会及び関係団体との連携・協働をより強化する。また、適切な受益者負担を漸次導入して、コストを抑制しながら魅力的な事業を展開し、施策の充実を図る。					
11	事業の内容（手法）	①市民体育大会の開催…総合開会式、D○スポーツフェスタほか、31種目別競技大会の実施 ②スポーツレクリエーション祭の開催…9種目別スポーツ大会の実施					
		平成30年度からの拡充・変更内容（予算措置を必要とするものに限る）					
12	指標の推移	名称（単位）	29年度 （総計目標値）	30年度 （見込み）	31年度 （見込み）	32年度 （見込み）	
	成果指標	総参加者数（人）	13000	13000	13000	13000	
	活動指標	① 開催スポーツ種目数（種目）	42	42	42	42	
		②					
13	コストの推移（単位：千円）		（当初予算）	（予算要求）	（見込み）	（見込み）	
	歳出（直接事業費）（a）		5,969	5,969	5,993	6,016	
	歳入（b）	受益者負担額					
		国県補助金等その他					
	（a）－（b）＝一般財源		5,969	5,969	5,993	6,016	
14	増額理由	継続事業					
備 考							

事務事業の概要							
1	事務事業名	各種大会開催業務					
2	担当部名	魅力創造部	担当課名	スポーツ推進課	課長名	熊本 光伸	
3	総合計画の位置づけ	目指す都市像	4	市民の自立と個性を活かすまち			
		施策	2	生涯スポーツの推進			
		今後の取組					
4	総合戦略の位置づけ	基本目標	3-2-2	新たな人の流れや交流を増やす			
		基本的方向	②	来訪者の増加を図る			
5	行革大綱の位置づけ	重点項目					
		項目					
		改革名					
6	予算事業名	スポーツ推進事業費					
7	事業開始年度	昭和 35 年度	事業終了年度	平成	年度		
事務事業の実施							
8	対象	市民・クロスカントリー大会は、国内在住者					
9	事業の目的	スポーツ大会を開催することで、市民の自主的スポーツ活動の成果を発揮する場を提供する。また、大会出場を目標に市民のモチベーションを高め、日常の鍛錬を継続してもらうことにより、生涯スポーツを推進する。					
10	改善内容を踏まえた今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直ししながら続ける	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する
		受益者から参加費を徴収することで、大会開催コストに係る市負担分を低減する。また、大会の運営主体を専門的ノウハウを持つ(公社) 檀原市スポーツ協会をはじめとしたスポーツ関係団体に移行することで、人的コストを削減する。					
11	事業の内容(手法)	総合型地域スポーツクラブや(公社) 檀原市スポーツ協会等と協働し、大会の開催及び運営の支援を行う。 …畷傍山一円クロスカントリー大会、春・夏少年野球大会、市民水泳記録会、小学生陸上記録会、飛鳥RUN×2リレーマラソン等					
		平成30年度からの拡充・変更内容(予算措置を必要とするものに限る)					
12	指標の推移	名称(単位)	29年度 (総計目標値)	30年度 (見込み)	31年度 (見込み)	32年度 (見込み)	
		成果指標	参加者総数(人)	4800	4800	4800	4800
	活動指標	①	事業数(件)	10	10	10	10
		②					
13	コストの推移(単位:千円)		(当初予算)	(予算要求)	(見込み)	(見込み)	
	歳出(直接事業費)(a)		2,459	2,459	2,466	2,472	
	歳入(b)	受益者負担額					
		国県補助金等その他					
	(a) - (b) = 一般財源		2,459	2,459	2,466	2,472	
14	増額理由	継続事業					
備 考							

事務事業の概要							
1	事務事業名	スポーツ活動支援事業					
2	担当部名	魅力創造部	担当課名	スポーツ推進課	課長名	熊本 光伸	
3	総合計画の位置づけ	目指す都市像	4	市民の自立と個性を活かすまち			
		施策	2	生涯スポーツの推進			
		今後の取組					
4	総合戦略の位置づけ	基本目標					
		基本的方向					
5	行革大綱の位置づけ	重点項目					
		項目					
		改革名					
6	予算事業名	スポーツ推進事業費					
7	事業開始年度	昭和 63 年度	事業終了年度	平成	年度		
事務事業の実施							
8	対象	市民					
9	事業の目的	①レジャースポットとして人気の高い運動公園全体の利用促進を図るとともに、余暇の有効活用、スポーツ活動を支援する。 ②競技スポーツ・生涯スポーツにおいて、国際大会や国民体育大会等に出場する市民選手を支援する。					
10	改善内容を踏まえた今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直ししながら続ける	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する
		①運動公園総合プール入場券の無料配布を継続し、市民のプール利用促進を図り、スポーツ活動を支援する。 ②橿原市各種スポーツ大会出場激励金交付要綱による激励金の交付を継続し、スポーツ活動を支援する。					
11	事業の内容(手法)	①運動公園総合プール入場券を、市内在住の3歳以上中学生以下の児童・生徒を対象に、無料配布する。 ②国際大会や国民体育大会等に出場する市内在住の選手及び監督に、激励金の交付を行う。					
		平成30年度からの拡充・変更内容(予算措置を必要とするものに限る)					
12	指標の推移	名称(単位)	29年度 (総計目標値)	30年度 (見込み)	31年度 (見込み)	32年度 (見込み)	
	成果指標	プール券利用率(%)	65	65	65	65	
	活動指標	①	プール券配布枚数(枚)	14000	14000	14000	14000
		②					
13	コストの推移(単位:千円)		(当初予算)	(予算要求)	(見込み)	(見込み)	
	歳出(直接事業費)(a)		5,750	5,750	5,799	5,848	
	歳入(b)	受益者負担額					
		国県補助金等その他					
	(a) - (b) = 一般財源		5,750	5,750	5,799	5,848	
14	増額理由	継続事業					
備 考							

事務事業の概要							
1	事務事業名	スポーツ振興管理事業					
2	担当部名	魅力創造部	担当課名	スポーツ推進課	課長名	熊本 光伸	
3	総合計画の位置づけ	目指す都市像	4	市民の自立と個性を活かすまち			
		施策	2	生涯スポーツの推進			
		今後の取組					
4	総合戦略の位置づけ	基本目標	3-2-2	新たな人の流れや交流を増やす			
		基本的方向	②	来訪者の増加を図る			
5	行革大綱の位置づけ	重点項目					
		項目					
		改革名					
6	予算事業名	スポーツ推進事業費					
7	事業開始年度	昭和 37	年度	事業終了年度	平成	年度	
事務事業の実施							
8	対象	市民					
9	事業の目的	①市民からスポーツ推進委員を選出し、委嘱する。委員は地域のコーディネート役として、行政・スポーツ関係団体等と協働し、地域での活動を行うことを目的とする。 ②各スポーツ団体、学識経験者からスポーツ推進審議会委員を委嘱し、スポーツ振興上の重要事項の諮問機関として行政運営に役立てる。 ③橿原市スポーツ推進計画の基本方針の一環として、トップアスリートとの交流事業を実施する。					
10	改善内容を踏まえた今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直ししながら続ける	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する
		①スポーツ推進委員は長年同じメンバーで運営してきたため、組織が硬直化してしまっているのが現状である。高齢化も著しいため、今後は組織の新陳代謝を図る必要がある。 ②審議会での意見を精査・検証し、今後のスポーツ行政に利活用する。 ③小学校での教室は多数開催することができたが、中学校での開催には至らなかったため、今後は中学校（特に部活動）へ積極的にアプローチをかける。					
11	事業の内容(手法)	①地域からの依頼による行事の運営協力や、全国・近畿・県のスポーツ推進委員協議会・研修会への参加、自主研修会の開催を通じ、資質の向上と技術の研鑽に努める。 ②橿原市スポーツ推進審議会の開催（年2回） ③橿原市スポーツ推進計画に基づき、事業としてトップアスリートやチーム（バンビシャス奈良・奈良クラブ）の選手を招聘し、学校訪問等による教室を開催することで、交流できる機会の創出及び応援を通じたスポーツを観る楽しみの提供、ジュニア競技者の上達意欲の喚起を行う。					
		平成30年度からの拡充・変更内容（予算措置を必要とするものに限る）	平成31年度のラグビーW杯、32年度の東京五輪、33年度のワールドマスターズゲームズ関西と続いて開催される国際スポーツイベントを、地域の活性化と交流人口の拡大を図る好機と捉え、事前キャンプ地の誘致、宿泊施設の確保、歓迎セレモニーの開催、国際交流事業の実施など、当市ならではのスポーツ・レガシーを創出する。				
12	指標の推移	名称（単位）	29年度 （総計目標値）	30年度 （見込み）	31年度 （見込み）	32年度 （見込み）	
	成果指標	参加延べ人数（人）	1000	1000	1500	2000	
	活動指標 ① ②						
13	コストの推移（単位：千円）		（当初予算）	（予算要求）	（見込み）	（見込み）	
	歳出（直接事業費）（a）		8,782	11,705	12,015	11,816	
	歳入（b）	受益者負担額					
		国県補助金等その他					
（a）－（b）＝一般財源		8,782	11,705	12,015	11,816		
14	増額理由	拡充事業	事業内容の拡充によるもの				
備 考							

事業の具体的内容の検討							
15	妥当性の検討	なぜ市が関与しているのか	番号	1 義務	法律等（条例を除く）で義務付けられた事業		
			2	2 任意	公共性や収益性の観点から市が関与すべき事業		
			説明	ホストタウンとして登録できるのは自治体のみであるため。また、各大会の事前合宿を誘致し、宿泊拠点やトレーニング施設を円滑に確保・調整していくには、市の関与が不可欠であるため。			
16	緊急性の検討	なぜ今なのか	説明	平成31年度のラグビーW杯、32年度の東京五輪、33年度のワールドマスターズゲームズ関西と、日本で再びいつ開催されるかわからないビッグイベントが、この3カ年度に集中するため。これらの3大会が連続で開催されるのは、日本が世界初の国となる。			
17	有効性の検討	期待される効果・メリット	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
			説明	<ul style="list-style-type: none"> ・まち・ひと・しごと創生総合戦略における「新たな人の流れや交流を増やす」取組みに則り、“橿原”の魅力を広く発信することで来訪者の増加が見込まれる。 ・スポーツをはじめめる契機となり、レガシーとして市民のスポーツ実施率の向上、健康寿命の延伸、医療費の削減が期待できる。 ・文化交流や本番の観戦を通して、国際感覚を身につけグローバルな視点を培うと同時に、ダイバーシティや共生社会への理解を持った人材を創出できる。 			
			1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
		上位施策（総合計画・基本計画）への貢献度	説明	拡充事業の最大の目的は、交流人口の拡大と地域振興にある。国際スポーツイベントを通して市自らがショーケースとなり地域の魅力を存分に伝え、ファンを増やすことでまず交流人口が増加する。それと並行して観光をトリガーに、買い物・飲食・宿泊・アミューズメントまで波及させることで地域が活性化し、将来的には移住人口・定住人口の向上にもつながるため、上位施策への貢献度は非常に高い。			
18	効率性の検討	コストの検証（費用対効果の検証を含む）	4	1 事業費も人件費も低減	2 人件費は増加するが事業費は低減		
				3 事業費は増加するが人件費は低減	4 事業費も人件費も増加		
			補助金等の有無	有	補助金名（ホストタウンの取組みに対する特別交付税）		
			説明	地域活性化の起爆剤、地域の課題解決の糸口として、上記のとおり国際スポーツイベントを積極的に活用するには、予算の増額とマンパワーが不可欠である。			